

ニュースの発行について

山崎農業研究所は、機関誌「耕」とはがき通信を会員の皆様にお届けし、またメールマガジン読者に「電子耕」を配信してきましたが、研究所の活動状況を少しでも早く会員の皆様にお届けするために、新たに研究所 NEWS を発行することにしました。当面の発行は年 3～4 回程度を考えています。当研究所の財政状況を考慮し、電子メールによる配信（PDF）を原則とし、電子メールの環境をお持ちでない方のみ印刷物としてお届けすることにしました。ただし、事務局は会員のメールアドレスを全て把握しているわけではありませんので、メールアドレスをお持ちで本ニュースが印刷物として届いた方は、下記住所または E:mail アドレスまでご連絡くださるようご協力をお願いします。

〒164-8721 東京都中野区本町一丁目 32-2 ハーモニータワー20 階 NTC コンサルタンツ（株）
開発事業部 益永八尋

E:mail y.masunaga@ntc-c.co.jp

第4 1 期会員総会開催される

山崎記念農業賞は新潟県「手づくり百人協同組合」に

7月25日、NTC コンサルタンツ株式会社社会議室（東京中野区中野坂上ハーモニータワー20F）にて、第4 1 期会員総会が開催されました。総会では、山崎記念農業賞授賞式と記念講演が行われ、今年の農業賞は“手づくり百人協同組合「雪だるま物産館」”（新潟県上越市安塚区樽田）に授与されました。「手づくり百人協同組合」は、豪雪地として名高い新潟県上越市安塚区の山麓棚田地帯農家のかあちゃん立ちの農産物や手づくり品などを扱う「雪だるま物産館」があり、それを運営する事業協同組合です。

授賞式には代表理事増野いつ子さん始め 5 名の関係者が出席され、古くから雪だるま物産館と取引のある阿佐ヶ谷の米穀店、中島哲さんから受賞のお祝いの言葉をいただきました。

表彰推薦者でもある塩谷哲夫表彰委員から表彰理由の報告があり、「手づくり百人協同組合」が、なによりも“農家のかあちゃんたち”の自主的な組織であり、淡々と山村に生きる人々の、自然環境を活かしながらしぶとく生きる農的な暮らしと、家族に支えられた家族農業が、山村のほころびをしっかりと補強し持続させていく深層での動きであり、この姿は山崎農業研究所の理念にも通ずると紹介されました。また、受賞者を代表して、増野秀樹さんから雪だるま物産館や手づくり百人協同組合の歴



小泉所長から増野代表理事に記念の盾を授与



増野秀樹さんの受賞者講演

史や取り組み内容について講演していただきました。

特別講演として、「地域に希望あり——まち・ひと・仕事を創る」と題して、大江正章（コモンズ代表、ジャーナリスト）さんからお話をいただきました。講演は、「手づくり百人協同組合」の取り組みにも通じるテーマで、地域の主体性による内発的発展や、経済至上主義やスケールメリット信仰から脱した、脱成長、小さな経済、適正規模、人から仕組みへ、などをキーワードとして、大江さんが各地を歩いてきた経験から、これからの地域のありかたについて講演されました。

さいごに、渡辺事務局長から 2014 年度の活動報告と 2015 年度の活動計画についての報告があり、賛成多数で承認されました。

（総会関連の資料は、参考資料として添付配信いたします）

小泉所長等 NPO 法人きらら女川を訪問

新しい事業所の引越し、その日にあの大地震が

7月1日、小泉所長、渡邊事務局長等4名（仙台から NTC コンサルタンツ東北支社の谷野氏と田中氏が同行）で、NPO きらら女川を訪問しました。きらら女川では所長の松原千晶さんに対応していただき、きらら女川の歴史や取り組みの内容などについて説明していただきました。

もともと女川町でパン作りをされていた阿部悦雄さんが障害者福祉のために立ち上げた障害者のための就労支援事業所“きらら女川”が、2010年12月1日に町の沿岸部で産声を上げました。開所当時の利用者（就労障害者）は4名でしたが、ニーズの高まりから、すぐに利用者は10名を超えたため、新たな作業所を建設し、2011年3月11日に作業所の引越しが行われました。そうです！あの東日本大震災の日です。その日は予定よりも早く引越し作業が早く終わり、午後2時頃までには大方の作業が終わったそうです。作業が終わり一息ついていたとき、あの大地震と津波に襲われたのです。

それまで活動していた事業所と引越し先も全て流出し、阿部さんが経営する食品加工会社「夢食研」の工場も流されたそうです。大変残念なことに利用者の2名が亡くられました。近くの高台に女川町立病院があり、そこに避難しましたが、1階はもちろん2階も悲惨な状態で、3階と4階に多くの人が避難されたそうです。実際に病院を訪れると、まさかこんなところにまで津波が来たのか信じられないほどの高台に位置しています。病院の敷地は標高約16mなので、2階の一部まで冠水したとなれば、20mくらいの津波であったと想像されます。反対側の高台に女川中学校があり、そこに卒業生が建てた「女川のいのちの石碑—千年後の命を守るために」がありますが、かなり高いところにあり、ここまで津波が来たことと記されています。



東日本大震災で、多くの人々の尊い命が失われました。地震後に起きた大津波によって、ふるさと飲み込まれ、かけがえのない皆さんの宝物が奪われました。

「これから生まれてくる人たちに、あの悲しみ、あの苦しみを、再びあわせたくない！！」その願いで、「千年後の命を守る」ための対策案として、①非常時に助け合うため普段からの絆を強くする。②高台にまちを作り、避難路を整備する。③震災の記録を後世に残す。を合言葉に、私たちはこの石碑を建てました。

ここは、津波が到達した地点なので、絶対に移動させないでください。もし、大きな地震が来たら、この石碑よりも上へ逃げてください。逃げない人がいても、無理失理にでも連れ出してください。

今、女川町は、どうなっていますか？

悲しみに涙を流す人が少しでも減り、笑顔あふれる町になっていることを祈り、そして信じています。

2014年3月 女川中学校卒業生一同

※きらら女川が体験した震災当日の生々しい状況について、松原さんのコラムが障害者保険福祉研究情報システムのサイトに掲載されています。「被災事業所の体験から、引越しのその日は大震災」で検索すると表示されます。

地元の食材を使ったかりんとう製造販売

震災直後は女川での事業復活はままならず、阿部さんは施設の管理者を務める松原千晶さんの地元・鳥取県伯耆町で障害者就労支援施設「夢工房 21」を開設し、女川での再起を目指しました。被災後土地利用には多くの規制がかかり、平地の少ない女川では事業所再建の目途が立たず、利用者は2年あまりの間、在宅生活を余儀なくされましたが、2013年4月きらら女川が復活、7月にはかりんとう工房が竣工しました。現在13人を雇用し、障害者が女川の特産品・サンマを使った、かりんとうやパンなどを製造、販売しています。今後もあまり規模は大きくせず、最大でも20名以下での運営を考えているとのことでした。実際にサンマのかりんとうを食べてみましたが、みんなが想像する黒くて硬いものではなく、パン生地をベースにした、食べやすい硬さの、クッキーのような感じの食感で、ほんのりサンマの香りがして大変美味しいです。魚介類は女川の食材を使い、パン生地は全て国産の小麦粉を使っています。

松原さんと阿部さんの最初の出会いは、鳥取で福祉関係の仕事をしていた松原さんが、女川の阿部さんに障害者にパンの作り方を教えて欲しいと電話したところから始まったそうです。それまで全く面識のなかった二人ですが、電話で阿部さんから「福祉はすぐパンに行き着く。“障害者が作ったパン”として世間から甘やかされてはいかん。パンをなめてはダメだ」と、結構きつく言われたようです。最初はびっくりしたそうですが、それだけ阿部さんはパン作りにもこだわりを持っており、障害者だからこそ最高のパンを作りたいという情熱が感じられたそうです。

松原さん曰く、“阿部さんは天才”とのこと。夢食研株式会社は、アイデアをかたちにし、次々にオリジナル製品を生み出してきました。東北大等と共同で食品保存酵素「夢-21」を開発し、これまで難しいとされていた様々な肉類・魚介類をはじめとする生鮮食料品の旬の味覚を封じ込めた長期保存を可能にしました。特殊加工で冷凍したわかめ、ホタテ、サンマをご馳走になりました。わかめはお湯でもどし、ホタテやサンマはレンジでチンして完成です。どれも新鮮で冷凍食品だとは思えないほど美味しくいただきました。

現在阿部さんは鳥取の夢工房 21 にかかりきりで、女川にはたまにしか戻れないようで、今回はお会いすることはできませんでした。逆に鳥取の松原さんは女川にかかりきりのようで、阿部さんは鳥取で障害者にかりんとうやパン作りの指導を、松原さんは女川で福祉施設運営のノウハウ伝授と、それぞれの得意分野で役割分担しているようでした。



きらら女川の外観



まるで採れたてのサンマ



昆布の湯戻し 右端が所長の松原さん



作業場の様子 雰囲気明るい職場です

次回の現地研究会、定例研究会

次回の現地研究会は10月下旬、定例研究会は12月中旬の開催を予定しています。現地研究会については研究テーマ、訪問先とも未定ですが、早急に決定し、お知らせしたいと思います。12月の定例研究会は、今年が国際土壌年であり、また12月5日が国際土壌の日として、世界的に土壌に関する取り組みが計画されていることから、山崎農業研究所としても農業に欠かせない土壌問題を取り上げたいと考えています。具体的な講演者についてはこれから会員のご意見を参考に決定したいと思います。

国際土壌年；適切な土壌管理が経済成長、貧困撲滅、女性の地位向上などの社会経済的な課題を乗り越えていくためにも重要であるとし、土壌資源の持続性向上とその必要性の社会的認知を高めることに加盟国や関連する組織などが自発的に務めるよう国連が呼びかけたもの。12月5日を世界土壌デーとすることが同時に採択された。

8月5日（水）19：00～21：00

「ハワイ TPP 閣僚会合で何が起こったのか？－緊急報告会！」

大詰めを迎えている TPP 交渉ですが、7月28日からハワイ閣僚会合が開かれます（本ニュースが届いているときは既に閉会しているかもしれませんが）。米国内ではマレーシアに対する「人権侵害国規定」問題が浮上し、日本とは自動車輸入規制問題、カナダ、ニュージーランドなどは TPP から離脱する可能性も指摘されています。この閣僚会合の報告会が8月5日に開かれます。

報告：内田聖子（PARC 事務局長）

●特別ゲスト：山田正彦さん（元農林水産大臣、TPP 差止・違憲訴訟の会幹事長）

●コーディネーター：魚すみちえこさん（ママデモ）

●参加費：800円（PARC 会員は300円）

★主催：アジア太平洋資料センター（PARC）

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453

E-mail：office@parc-jp.org HP <http://www.parc-jp.org/>

会費納入のお願い

山崎農業研究所は、会員の会費や寄付で財政のほとんどを賄っています。会費納入率が昨年度は80%を下回り、研究所の運営に支障をきたす要因となっています。まだ会費を納められていない会員におかれましては、是非会費納入にご協力くださるようお願いいたします。